

社会福祉法人 唐橋福祉会

編集兼発行人 理事長 下村 勉

「10万円」の一部をこども緊急募金へ

ありがとうございます。(23日現在) **28万円になりました。**

コロナ対策「10万円給付金」は、効果を上げているか

コロナ禍で多くの人たちが仕事を失うなど困窮している。この人たちには「10万円1回きり」の給付ではどうにもならない。一方、所得が安定していて経済的な困難に陥っていない人たちも多数いる。こうした中で、「全国民に一律10万円給付」は適切な政策だろうか。

10万円は「コロナ対策のための経済対策」という名目でばらまかれた。13兆円がいっせいに消費などに振り向けられたら経済効果は大きいだろうが、そのような呼びかけはない。現実には多くの国民の貯蓄残高を増やしただけに終わっている。「10万円はコロナ対策のため、〇〇に使いました」と答えられる人は多くはないだろう。効果が具体的に示せないような施策は「人気取りのバラマキ」と言われても仕方がない。「砂漠にブドウ酒を注ぐ」がごとき愚策である。

なぜ、野党がこのような不可解な給付金を強く批判しないのか？と疑問が残る。

財源は、「赤字国債」という国の借金

13兆円(正確には12兆8803億円)に及ぶ巨額の経費は、全額が「赤字国債」で賄われる。現在のような「非常事態」の中では、借金もやむを得ない。救援が必要な国民を「予算がない」と見捨ててはならないからだ。しかし、借金で用立てたカネは、効果的に使うべきだ。国債は現世代ではなく、66年後、100年後の孫子の世代が返済しなければならない。現世代が間違った使い方をして作った借金の返済を未来の世代に押し付けることに心が痛む。

有効な活用方法を 県社協の募金目標は7000万円

ともあれ10万円が給付されたのだから、有効な使い方を国民は考えなければならない。少しでも有効に使わなければ、借金をツケ回しされる未来の世代に申し訳がない。もちろん使途は個人に委ねられている。生活が苦しい人がコロナにこだわらず活用することも自由である。個人消費も含め、幅広く多様な活用方法がある。「こども緊急募金」は有効な使途の一つとして活用が望まれる。

寄付いただける人は、封筒に氏名、金額、寄付先を明記して、事務室までお届けください。

- 寄付先1 「滋賀の困窮するこどもたちを救援するために」
- 寄付先2 「滋賀の外国人学校を支援するために」
- 寄付先3 「ピースボート(平和の船)を再開するために」

Aさんは、「熊本など各地の被災地へ義援金として送った。残った3万円を募金する」と届けられた。
(Aさんは年金生活者)

Bさんから届けられた封筒には、「福澤さん、2名在中」と書かれていた。何のこと？ 確かめたら、
「福澤諭吉(1万円札)2枚在中」という意味だった。楽しい表記!! (Bさんは園児2人の保護者)